

会 議 録

会 議 の 名 称	第 4 回小金井市新庁舎・（仮称）新福祉会館建設基本設計委託事業者選考等委員会（設計レビュー）
開 催 日 時	令和元年 10 月 27 日（日）午前 10 時 00 分から 12 時 00 分まで
開 催 場 所	商工会館 2 階会議室
出 席 者	卯月 盛夫 委員長 金子 和夫 委員 河上 牧子 委員 宮下 清栄 委員 山家 京子 委員 住野 英進 委員
欠 席 者	水谷 俊博 委員
設 計 者	管理技術者 渡辺 建築主任技術者 河田 建築意匠担当 井上 建築意匠担当 小塩 建築構造担当 蓮池 電気設備担当 川波 機械設備担当 森山
事 務 局	高橋 庁舎建設等担当部長 今井 公共施設マネジメント推進担当課長 渡辺 企画政策課主査 小林 企画政策課主任 萩野 企画政策課主任 前島 福祉会館等担当課長 山口 地域福祉課主査
傍 聴 の 可 否	可
傍 聴 者 数	35 人
傍聴不可等の理由等	小金井市新庁舎・（仮称）新福祉会館建設基本設計委託事業者選考等委員会設置要綱第 5 条第 4 項
会 議 次 第	1 開会 2 基本設計の経過等（小金井市） 3 基本設計提案内容等の説明（株式会社 佐藤総合計画） 4 質疑応答、意見交換（選考等委員会） 5 総括（委員長） 6 閉会

会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
資 料	資料 1 : 基本設計の経過報告 説明用資料 資料 2 : 小金井市新庁舎・(仮称) 新福社会館前期レビュー 説明用資料 資料 3 : 構造説明用資料
そ の 他	—

《次第1 開会》

【事務局】

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設基本設計委託事業者については、昨年12月に選考等委員会を設置し、公募型プロポーザル方式による基本設計者の選考を進め、本年3月に基本設計者である「株式会社 佐藤総合計画」を選考した。

選考等委員会は、基本設計の進捗確認も所掌事項としていることから、本日の設計レビューは、設計者選考の際の技術提案書の進捗状況等を確認することを目的に開催するものである。委員長より、ご挨拶をお願いします。

【委員長】

12月にこの選考委員会が設置されて以降、全3回にわたる選考委員会の中で佐藤総合計画に決定した。本日は選考に関わった委員の皆さんに集まっていたいただき、4月から10月までの半年間で当時の提案内容がよい方向に変わってきていると伺っている。途中経過ではあるが、委員の皆さんに設計作業の進捗を確認いただきたい。さらに市民の皆さんにも見ていただく。

このような取組みは次第に増えてきていると思うが、選考に関わった委員の皆さんが、設計の進捗確認まで関わるといった事例は非常に珍しい事例である。

プロポーザルからの提案が、どのように発展していったかを確認することは、とてもよい取り組みだと思う。そういった意味で今日のこの場があるので、是非その辺りの主旨を理解いただき参加いただきたいと思う。

また、本日は市民の皆さんが発言する機会はないが、今後、市民説明会やパブリックコメントなど、ご意見をいただく機会があると伺っている。ぜひ、その機会にご意見を寄せていただきたい。

《委員自己紹介》

【事務局】

これより、司会を委員長をお願いします。

《次第2 基本設計の経過報告》

【委員長】

次第2 基本設計の経過報告について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料1をご覧ください。

これまでの経過として大きく6つに分類をして説明する。

はじめに公募型プロポーザルの実施について、である。

市では、設計者選考に当たって、庁舎・福祉会館を複合施設として建設するための要件を「複合化整備方針」において整理した。要件として、「既存清掃関連施設は、暫時の移転を行わない」、「更なる施設規模の縮減を目指す」、「福祉会館機能の早期回復」、「免震構造の地下空間は有効活用を図る」、「駐車場、広場の活用について、バランスのとれた空地活用を目指す」である。これらの項目について、「複合化整備方針」として取りまとめ、これを設計要件とした上で平成30年12月に選考等委員会を設置した。

平成31年1月に設計者を公募型プロポーザル方式により募集を行い、5者に参加をいただき選考等委員会における2回の選考を経て、「株式会社 佐藤総合計画」を事業候補者に選考し、平成31年3月に契約締結を行った。

続いて、市民説明会の開催について、である。

プロポーザルの技術提案を市民の皆さんにも広く知ってもらうため、こがねい市報5月15日号において新庁舎等の特集号を配布したほか、5月19日に市民説明会を開催した。

市民説明会には38名の方に参加いただいた。市民説明会では、コスト縮減について、市民意見の吸い上げについて、福祉会館の諸室諸機能について、敷地周辺を含めた車両動線と安全への配慮について、震災時等のトイレについて、広場面積の確保についてなどのご意見をいただいた。

これらの意見を含めて、基本設計において検討している。

続いて、市民参加について、である。

市民参加の手法については、プロポーザルの技術提案の中で求めており、設計者より3つの手法について提案をいただき、実施している。

1つ目として、市民ワークショップは、全4回の開催を予定しており、1回目は広場の使い方について、5月25日に開催した。2回目はマルチスペースの使い方について、8月3日に開催した。3回目は多目的室の使い方について、9月28日に開催した。現在、3回目まで終

了しており、11月30日に4回目を開催する予定である。

ワークショップでは、毎回、約30名の方々にご参加いただき、非常に活発な意見交換を行っていただいている。

2つ目として、ユニバーサルデザインレビューでは子育て世代、障がい者団体、高齢者団体の方々からご意見をいただき、設計に反映しようと考えている。1回目は敷地内動線について、2回目はトイレ、授乳室、キッズスペース等について、3回目はサイン計画についてである。現在、2回目までを終了している。

3つ目として、こがねいミーティングである。こがねいミーティングは学識経験者、関係団体、公募市民、行政職員で構成する組織であり、市民ワークショップやユニバーサルデザインレビューで出された様々な意見、アイデア等を踏まえ、設計に反映させる方向性を整理していただくことを目的に設置している。

1回目は6月6日に、2回目は9月3日に、3回目は10月17日に開催をしている。4回目は11月30日の市民ワークショップを開催した後、12月19日に開催する予定である。

市民ワークショップやユニバーサルデザインレビューで出された様々な意見、要望について、こがねいミーティングで吸い上げ、それぞれにフィードバックする、そして、こがねいミーティングにおいて方向性を取りまとめ、設計に反映するという取組みである。

次に庁内検討体制について、である。

庁内では複数の組織体を設置し、検討を進めている。「庁舎等複合施設建設庁内検討委員会」では、市長を委員長として理事者、部長職者で組織しており、その次の「庁舎等複合施設推進本部」では、副市長を推進本部長として庁舎担当、福祉会館担当で組織している。さらに、その下に関係する課長職者で組織する「市民サービス向上検討部会」「ICT利活用検討部会」「複合施設管理機能検討部会」「防災機能検討部会」「まちづくり検討部会」の5つの検討部会を設置している。

ここに至るまでに、総合窓口検討部会、文書管理機能検討部会、などにおいても検討も行ってきた。

続いて、「施設配置、構造（耐震システム）の比較」について、である。

施設配置については、平成29年度に実施した建設計画調査の実施以降、複数案の検討を行ってきており、C-2案は、庁舎と福祉会館を横に配置する施設配置である。

C-3案は、庁舎と福祉会館をL字型で配置する案である。

基本設計者からは、庁舎と福祉会館を重ね合わせてL字型で配置する施設案が提案された。

基本設計者案では、敷地の東側や南側の空地を確保でき、これまで市が示してきた庁舎7階・福祉会館5階を、庁舎6階・福祉会館3階と低層化されており、市としては、基本設計者から示された施設配置案をベースに進めることとした。

次に、構造（耐震システム）の比較検討について、である。

A案は、基本設計者案であり、庁舎は地下階を建設した上で、庁舎を免震、福祉会館を耐震とした案である。

B案は、庁舎と福祉会館の地下階を駐車場にして、庁舎を免震、福祉会館を耐震とした案である。

C案は、庁舎と福祉会館の地下階を駐車場にして、庁舎、福祉会館ともに免震とした案である。

耐震システムについては、国土交通省監修の基準上の分類からも、庁舎については、免震構造を採用することとした。福祉会館については、求められる目標値以上の耐震性能を満たすこととして、その上で概算コストが最も低く、福祉会館の早期竣工が見込めることから、最も竣工時期が早いA案を採用することとした。

なお、構造を検討するうえで、密接に関連する広場については、市民ワークショップ、こがねいミーティング等でも検討を行ってきている。

こがねいミーティングの方向性としては、広場空間を確保するため、福祉会館の屋上へと繋がる立体的な広場の検討を行うことといった方向性が示されている。広場の考え方については、後ほど、基本設計者からも説明をいただく。

最後に、今後のスケジュールについて、である。

引き続き、基本設計を進め、来年2月からパブリックコメントを実施する予定である。通常のパブリックコメントの手続きのほか、ハガキ付市報特集号を発行するなど、より市民の皆さんから意見をいただけるような手法を考えている。あわせて、市民説明会を複数回実施する予定である。

基本設計以降のスケジュールについては、現在、基本設計中ということもあり、現時点での予定となるが、令和2年度には実施設計、令和3年5月までに施工者選考を経て、令和3年6月以降の着工に向けて取組んでまいりたい。

今後、工事段階のスケジュール等についても鋭意検討を進めるものとするが、令和4年7月に福祉会館竣工、令和5年8月に庁舎竣工を予定している。

市からの経過説明は以上となる。

引き続きのご理解、ご協力をお願いしたい。

《次第3 基本設計提案内容等の説明》

【委員長】

続いて、次第3 基本設計提案内容等の説明について、基本設計者の佐藤総合計画から説明をお願いする。

【佐藤総合計画】

資料2をご覧いただきたい。

まず配置計画、外構計画について、説明させていただく。

プロポーザルでは、市民も職員も一緒に気軽に寄り添える語り合える場としての小金井ひろばを提案した。北側に中央線があり、マルチスペースを中心にコミュニティーネットワークのスペースがあり、小金井ひろばに面して展開していくということをプロポーザル時に提案した。

プロポーザルでは、小金井ひろばを中心に3つの広場として、西側にある「ウエルカムひろば」、そして東側にある「こどもひろば」、南側にある「親水ひろば」の3つのひろばを配置し、駐車場を含めた大きな広場を私たちはプロポーザルで提案した。

ひろばに関しては、ワークショップの際に市民の皆さんから様々なご意見をいただいております。その中で、できるだけ広場を広げたいとの意見を多くいただいた。それらの意見を反映するため、小金井ひろばの中央部分にひろばを広げて、庁舎の入り口付近は、駐車場が半分占めているのではなく、臨時駐車場とすることで、少しでも広場を広げるような工夫ができないかということで検討している。

福祉会館については、「段状の丘」に屋外階段を計画し、広場から屋上庭園を繋げて立体的な広場になるような計画をしている。“緑の流れ”を繋ぎ、市民の活動が立体的にひろがる空間となるように考えている。

アプローチについては、主に、ユニバーサルデザインレビューで意見を伺っている。道路から建物の西出入口に点字ブロックの設置することや、雨に濡れないために庇を設置すること、また、新庁舎、新福祉会館への出入口にインターホンを設置する方向で検討している。

駐輪場は、必要台数400台を大きく3か所に分けて計画している。敷地出入口に近接して駐輪場を設けることで、歩行者と自転車を明確に分離させ、安心してアクセスできる計画としている。また、敷地内は、自転車は手押しで通行するルールとすることで安全性を確保することを提案している。

駐車台数については、現在の庁舎の利用台数を集計・分析し、公用車と合わせて、103台が常時必要であると判断しており、23台分については、臨時駐車兼ひろばスペースとして活用することを計画している。このことにより、通常は広場として使用でき、繁忙期には誘導員を配置する等駐車場とすることを考えている。

福祉会館は、プロポーザル時にピロティを提案しており、思いやり駐車場から雨に濡れることなく施設にアクセスできるようにと計画している。

ピロティは柱・ブレースを効率よく配置し、耐震、安全性を徹底するとともに、災害時には物資の搬入や仮置きスペースとしても有効に活用できる計画としている。

次に、平面計画について、建物の内部について説明をさせていただく。「庁舎と福祉会館を重ね合わせる」これが私たちのプロポーザル時の大きな提案である。私たちの提案では市のこれまでの調査結果等をベースとしながら、庁舎と福祉会館の高さを抑えて周辺の住環境を整える計画である。さらに、庁舎と福祉会館を並べるのではなく重ね合わせることで空間や機能を統合するなど、複合化によるメリットを最大限に活かす提案である。

例えば、重なる部分にはエントランスホールやマルチスペースなどのロビー空間や会議室、情報発信機能、ギャラリーなどを集約している。

プロポーザル時の提案では、マルチスペースを中心に、カフェや多目的室などの市民活動スペースを中心に配置しています。プロポーザルではマルチスペースを中心に1、2階の活動スペースを繋ぎ庁舎・福祉会館の相互利用を活発化する「コミュニケーションネットワーク」を提案した。市民ワークショップやユニバーサルデザインレビュー、こがねいミーティングでは、特にこの部分について、意見をいただいた。

主な意見として、マルチスペースについて、イベントで活用をしたい、吹き抜けを利用したマルチスペースの利用、市民参画スペースとマルチスペースの一体的利用といった意見をいただいている。

待合スペースについても、閉庁時は学習もできるようなスペースとして活用したい等の意見をいただいた。

こがねいミーティングでは魅力的な展示スペースとなるよう工夫、夜間の展示を考慮した照明計画が必要等の意見をいただいた。

1階の多目的室については講演会の開催、映写会や演奏会などの開催、美術作品の展示、椅

子やテーブルなどの収納スペースの確保等の意見をいただいた。

2階の多目的室については、畳敷き、鏡張りの部屋があってもいい、防音・騒音への配慮、椅子やテーブル等の収納スペースの確保、保育でも使えるような設え等の意見があった。

また、カフェについては、小金井産の野菜を使ったものが食べられるカフェ、気軽に使えるような飲食スペースにして欲しい、といった意見があった。

今後、福祉会館の屋上についても、どのような運用の仕方ができるのか、ということも含めて検討したい。

次に、外観計画、立面・断面計画について、である。

小金井らしさを表現した外観計画ということで、小金井らしさを喚起する『はけ』、『階段』のある風景といった起伏ある地形や豊かな緑を表現している。

周辺の住宅のプライバシーの確保に配慮して、東・西・南面は基本的には壁で構成し、北面は大きく開いた立面計画としている。北面はひろばに対して大きく開き、市民の活動が見えるような設えとしている。

続いて、断面図である。ひろば面積を最大限確保するため、1階の建物の範囲を最小限に計画している。さらに、延べ床面積を確保するため、上階にいくにしたがって床面積が大きくなる段状の断面計画としている。JR側に大きく開いた段状の『市庁舎』と立体的な広場をもつ『福祉会館』の活動が『小金井ひろば』へと繋がる。

最後に、建物の仕上げについて、である。

外部仕上げについては、アスファルトで防水した上で、防断熱をすることを考えている。外壁や壁の部分はセメント板で計画しており、解放部はアルミサッシカーテンウォールを想定している。

内部の仕上げに関しては、執務室の天井は直天で放射空調パネルを設置する計画であり、壁に関しては石膏ボードという建材用のボードにEPというペンキ塗りの仕上げを考えている。床はタイルカーペットで考えている。

マルチスペースは、天井は岩綿吸音板ということで吸音材を考えており、壁は石膏ボードとペンキ仕上げを考えている。床に関しては、外部と繋がる部分となるため、現在はタイル張りを考えている。建築的な説明は以上である。

《次第4 質疑応答、意見交換》

【委員長】

これより、質疑応答、意見交換に移りたいと思う。

はじめに、私から、3点について、説明を求めたい。

1月から3月に掛けて、選考等委員会において選考を行ってきた訳だが、会議の中で、連結免制震、庁舎と福祉会館を重ね合わせたところのコミュニケーションネットワーク、環境に対するパッシブ手法、ライフサイクルコストの縮減に関して、委員の皆さんの関心が高かったと認識している。以上3点について、現在の状況を伺いたい。

【佐藤総合計画】

提案では、庁舎と福祉会館を重ね合わせることを提案した。それを構造計画としても合理的に耐震性を高める計画として提案したものが連結免制震の考え方である。資料3をご覧ください。1ページ目のおおりに、プロポーザル時では、福祉会館の階段を耐震コアとして立ち上げる考え方をしていたが、基本設計で検討していく中で、収まりが厳しい部分があると考えており、現在、2ページ目のおおりに、見直しも含めた検討を進めている。

現在は庁舎と福祉会館の接続部分を免震層と考え、免震装置と制振装置を福祉会館上部に設置することで地震力のエネルギーを吸収できると考えており、部屋としても使用できる計画としている。

3ページ目のおおりに、装置の見直し等により、構造的性能はプロポーザル提案時点から低下させず、重ね合わせることにより、通常の耐震構造と比べて、70%程度低減することが可能となり相乗効果が得られることを確認している。

【委員】

福祉会館上部の4階以上の庁舎部分は、揺れ方として庁舎部分と一体的に揺れるのか。

【佐藤総合計画】

一体的にすることで、庁舎全体が免震構造となるように計画しており、揺れ方として一体的な揺れとなる。

【委員長】

免震構造と耐震構造と何が違うのか。

【佐藤総合計画】

免震構造は、大きく地震が起こった時に、建物全体で大きくゆっくりと動くような動き方をする。耐震構造は骨組み自体が動いて地震力のエネルギーを吸収するので、骨組みが細かく動く。それに対して制震装置は間を取っているような構造となっているので、耐震構造に制震装置を入れることで耐震構造の揺れを小さく抑えるといった効果を見込んでいる。今回は、免震装置と制震装置のいいところを活かすといった構造計画になっている。

【委員長】

2つの構造が違うものを重ね合わせることがポジティブに働くのか、ネガティブに働くのか。動き方が違うから、どこかでずれてしまうのではないかと、という考え方もあると思いますが、制震装置により、その間を埋める工夫をしながら、かつコスト高にならないような工夫をしている途中という認識でよいか。

続いて、コミュニケーションネットワークについて、説明をお願いします。

【佐藤総合計画】

庁舎と福祉会館が重なっている1階から3階部分をコミュニケーションネットワークとして想定しており、ここがうまく機能するかが本施設の鍵になっており、市民ワークショップ、ユニバーサルデザインレビュー、こがねいミーティングで様々な意見をいただいている。マルチスペースは多機能なイベントを想定しており、多目的室と一体利用できるように考えている。

待合スペースについても待合スペースのみではなく展示スペースとしての活用についての意見もあり活動が広がっていくと考えている。

待合スペースは閉庁時も活用したいという意見をいただいております、市民が活用できるような仕組みを検討している。

2階に関しては、多目的室や、会議室、カフェは市民が利用できる場所に面しており、アクティビティが高い使い方ができるのではないかと考えている。

3階に関しては、ひろばスペース、保健センターがある中で吹き抜けを介して回遊できるようになっており、こういったところでも市民が活動できるのではないかと考えている。さらに、福祉会館の屋外階段で上階へ繋がることを想定しているため、さらに施設の回遊性を高め、市民利用を向上させることができ、プロポーザル時よりも良くなっていると考えている。

【委員長】

2階のカフェは奥まった位置にあり、視認性が低いのではないかと。

【佐藤総合計画】

メインの入口から入ってすぐの吹き抜けに面したところにカフェがあるため、奥まった位置にあるが、視認性が高く、わかりやすい位置と考えている。

【委員】

小金井ひろばに面している場所は、広場と一体性を持たせた縁側的な場所というように考えると、機能を与えずにフリーに広く使っていくという考え方もあるのではないかと。

【佐藤総合計画】

フラットに全部繋げることもできるが、免震構造としており、1階の床のレベルのところではフラットに繋げるのは非常にコストがかかる。皆さんの意見やコストバランスの検討が必要である。

【委員長】

免震構造との関係というのは理解ができる。

【佐藤総合計画】

補足になるが、免震構造ということで、建物が動くため、段差ができる。現在は、危険回避のために緑地にしている。技術的には平らにすることも可能であるがコストと合わせて検討したい。

【委員】

他の周辺マンション居住関係において南、東、西は壁としているが、特に南側はカフェにしる、そういった部分の採光の取入れ、或いは執務室についての考え方はどうなっているか。

また、窓については、時期によってはマンション等に光が反射をして苦情が来るのではないかと考えられるが、施設内の採光と周辺環境への影響等について伺いたい。

【佐藤総合計画】

執務室への採光については、全部閉じてしまう訳ではなく後ろ側にいくつかテラスを設けており、採光を取れるようにしている。基本的には執務室の採光は北側からの採光としている。執務室の後ろにユーティリティスペースを設けており、そういったところに部分的に窓を設けることを考えている。

立面図をご覧いただきたい。窓を設けて採光が真っ直ぐに入るのではなく横からオフィスの中に光を入れることを考えている。光の反射について、壁の仕上げは、先程セメント板という説明をしたが、平らなセメント版ではなく、若干表情のある形状のものにして直接反射しないようにし、その際に反射防止の塗料を使用することも考えている。

補足をさせていただくと、まず、南面になぜ、窓がないのかということは委員も気にされているとおりにマンションに面していることからプライバシーへの配慮ということも考えている。南面の熱負荷を低減するパッシブ手法の一つになるが、熱の侵入を防ぐという所も含めて考えている。その二点で考えており、反射に関しては硝子にするよりは壁の方が反射を無くす方法が色々あり、そのような意味でも効果はあると考えている。

執務室には、ユーティリティスペースを設けており、例えば、書庫や簡単な会議を行う場所、リフレッシュスペースなどがあり、こういった場所に面して窓を設けてそこでリフレッシュをし、外気を感じたりでき、サポートスペースとしての機能を維持しながらも開口部をできるだけ少なくするというような工夫をしている。

模型を作りながら光の入り方や光のシミュレーション、どのくらいの明るさになるのかという部分を、引き続き、実施設計に向けて確認しながら進めていきたい。

【委員】

コミュニケーションネットワークの空間の特徴について、縦にも繋がっているのがすごく面白いと思っている。カフェについても下から抜けて視覚的に繋がっていることもわかるが、縦の繋がりのメリットをもう少し教えていただきたい。逆に音についての課題があれば教えていただきたい。

【佐藤総合計画】

縦の繋がりに関しましては、マルチスペースからカフェが見える、多目的室が見える、子育てひろばが見える、庁舎側にも会議室があり、まさにそういったものが見える、利用している姿が見えることが一番大きいメリットであると考えている。

各部屋の機能がガラス面を大きくして、まさにパースのように市民の方々が活動しているのが見えるというようなことを考えている。

音の問題に関しては、やはり大きなイベントを庁舎開庁時に行うことは難しいと思われるため、閉庁時に限定するような時間での運営であるとか、早めのアナウンスにより、音が出るということを周知した上でイベントをすることになると思う。また、多目的室の壁をガラスにした場合でも、遮音ができないという訳ではなく、高遮音のガラス窓というものもある。ただホール建築や会館建築のように完全な遮音は難しいと考えており、一定の制限というのは出てくると思われる。和太鼓やロック系の音楽をやるといのは、施設の性質上、難しいと考えている。

【委員長】

多目的室の使い方についても説明をお願いしたい。

【佐藤総合計画】

1階の多目的室は約140㎡あり、講演会などを行う想定である。ガラス張りを考えている。

2階は、多目的室が4部屋ある。大きさが違う多目的室をいくつか組み合わせしており、用途に応じた利用の仕方ができると考えている。ワークショップの中では床材を変えたい、水栓が欲しいなどのご意見もあり、同じ部屋が並んでいるのではなく設備を変えることも考えている。

【委員】

活動が見えることは良いことだと思うが、一方でプライバシー保護などの観点も必要かと思うが、どうか。

【佐藤総合計画】

全部ガラス張りにするのかガラスの部分もあるのか、ということについては、これからの検討になるが、内部にはブラインドを付けて閉めたいときには閉められるということも考えている。

【委員長】

庁舎と福祉会館を複合化することのメリットが、コミュニケーションネットワークにあると思っている。庁舎だけでは、これだけの多目的室はあり得ないが、福祉会館があるからできる。うまくこの部分で連携出来ることがメリットであるという印象を持っている。

3つ目のパッシブ手法、コストについて、説明をお願いします。

【佐藤総合計画】

先程、周辺環境への配慮という点で外壁について説明したが、まずランニングコストを下げる大きなポイントとして、エネルギーが大きな問題となる。一番エネルギーを使うのが空調になる。空調のエネルギーを下げるには、断熱性能を良くすることが重要である。

東西からの光は熱量が高く、日射を遮ることが空調のエネルギー効率をよくするポイントになる。今回の敷地は東西が南北面よりも小さいという時点でも既にエネルギー効率が良い建物ということになるが、さらに南面を壁にしてしっかり断熱することにより建物の外から入ってくるエネルギーを極力小さくすることができる。

壁だけの建物では居心地が良くないため窓が必要となるが、直射日光の入ってこない北側に大きな開口部を設け、自然喚起ができるようにしている。

真夏、真冬以外の中間期はできるだけ自然換気を取るよう考えているが、北側にJRがあり日常的に大きな騒音があることがポイントである。やはり窓を開けると庁舎の中に音が入ってくるため、現段階では北側の窓は固定したものを想定している。音はきっちり遮りながら、換気するために、それぞれの窓の下側に換気専用の窓を別に設けて、日常的な換気はできるような仕組みを考えている。断熱をきっちりしたうえで高効率の空調設備を搭載することによりエネルギーを低減していくことを考えている。

パッシブとは、機械などに頼らない設備・建築にしていきたいということであるが、段上形状をうまく活用しながら空気を取り入れつつ、その中で吸音するという仕組みを作っていきたい。単に建築自身の形がひろばを大きく取るための形状をしているというだけでなく段上の形をうまく活用したい。

これからシミュレーションをしていくが、南側にエコボイドを設置しており、北側から入れた空気を南側のエコボイドに導いていくような換気システムを考えている。空調を使わない中間期を心地よく過ごしていけるような仕組みを作りたい。

【委員長】

ライフサイクルコストについてはどうか。

【佐藤総合計画】

エネルギーを使わないためライフサイクルコストは下がっていくと考えている。

さらに、窓面が少ないということは窓の掃除も少なくなる。北側の窓は、安全な梯子状のスライドの設置を考えており、できるだけ維持管理がかからないということを視野に入れながら実施設計に取り組んでいきたい。

【委員長】

北側のガラス壁面は美しいが清掃は大丈夫ということか。

【佐藤総合計画】

現在、検討しているところだが移動式の作業台を作ることにより清掃を改善することができると考えるが、設置費がかかる。建物の高さが20メートル程度なので、場合によっては高所作業車でも作業はできるが、維持管理費がかかる。イニシャルコスト、ランニングコストを比較しながら検討をしている。

【委員】

ピロティが懸念事項と考えている。福祉会館は耐震構造で、制震装置を付けて免震と合わせて一体で揺れを吸収することは理解できたが、ピロティは少なくとも、これまでの震災では、構造的に弱いと言われている。一方で、最近では気象災害が激化し頻発化して、ピロティは水対策としては効果があるという見方もある。

直下型地震だと地下の浅いところからの突き上げで縦揺れが酷いということであり、ピロティの安全性をどのように考えているか、伺いたい。

【佐藤総合計画】

ピロティの構造的な問題性が問われたというのは阪神大震災の時の被災状況だと思われるが、当時の構造的なピロティというのは、1階部分に耐震要素が抜けている。通常はブレース

や耐震壁があるが、かかえているところに耐震要素が抜けてしまうような計画というのが構造的な意味でのピロティになる。本計画では、上から下まで耐震要素を通しており構造的なピロティにはならない構造計画としている。

【委員】

今回は北側がガラス張りで、その他は壁面となっている。その辺りのバランスについては、どうか。

【佐藤総合計画】

構造的にも開口部があったりなかったりするところのバランスをどう取るか、が構造設計でも非常に重要なところになってくる。壁の開口要素について、特に問題になるのがRC造、鉄筋コンクリート造の部分である。鉄筋コンクリート造は、骨組みが鉄筋コンクリート造で外壁や内壁も鉄筋コンクリート造の壁を入れることになるが、壁と骨組みがどうしても同じ構造コンクリートで一体化するため、壁の硬さなどが、柱や梁に入ってきてしまうという箇所を、どのように効率よく開口がある箇所と無い箇所のバランスが重要になってくる。

今回は、鉄骨造を想定しており、基本的には壁や外装材はかんしき材として、骨組みとは違う受け方をする計画となるため、そういった要素はないと考えている。

部分的に鉄筋コンクリートの壁にする場合は、今、ご指摘があったように開口部とのバランス、構造的な強さや硬さなどのバランスが重要になる。

【委員】

現状の建設予定地は広場として親しんでいる場所になる。そこに新しく建物が建ちため、これまでの利用の仕方とは変わってくると思われるが、そういった意味で魅力的な広場の具体的な利用の考え方を是非、提案していただきたい。

また、JR中央線からの駐車場も含めた見せ方に工夫が必要であると思っている。

将来的には修繕をしたり建て替えたりという時期が何十年後かに来ると思うが、そういった時にやはり市民サービスのレベルを下げるわけにはいかない。また、業務効率性も維持していかなければいけないため、一定程度の執務室の確保は必要であると考えている。コストの縮減、面積の縮減は必要になるが、職員の働きやすさや市民サービスの向上という観点から、現時点での工夫、将来に向けた考え方があれば、伺いたい。

【佐藤総合計画】

広場の見せ方や見え方については、JRからよく見えるので、この建物が小金井市の象徴になればいいと考えている。その中で市民ワークショップ、或いは、こがねいミーティングの中でも、この駐車場の部分を含めて、全てを日常的に広場として利用が出来ればいいが、駐車場の一部を広場兼駐車場にできたことは非常に大きいと思っている。

ここをきっかけにして、階段を広場的に使って、イベントをする際には客席にもなるような仕組みや、或いは、階段を上っていくスペースに市民の皆さんが管理できるような植物を植えるような仕組み、福祉会館の屋上は電車が見られるようなスペースがあってもいいと考えている。

市民の皆さんから意見をいただく中で、広場全体が緑の流れを伸ばして一体の大きな広場になっており、『はげ』であるとか、小金井独特の地形のお話があったように、小金井の庁舎・福祉会館を複合したメリットを最大限に活かす施設になっていくと考えている。

私共の提案の一つに、いかに職員の効率を上げて面積を縮減するかが、ポイントのひとつであり、ある程度縮減ができるのではないかという部分について、ヒアリングを行いながら検討している。一方で、職員数は大規模修繕が必要なころには増えてはいないだろうと考えており、マルチスペースを中心としたコミュニケーションネットワークを提案させていただいている。

1階に関して言えば、将来に向けての対応策として、カウンターを含め市民が利用できるようなスペースになればと考えている。

【委員】

駐車場はどのような形で作る予定か、広場との関係性をもう少し教えていただきたい。

【委員】

合わせて、市民ワークショップでは、どのように広場を使いたいという意見があったかについて伺いたい。

【佐藤総合計画】

駐車場、広場の設えについて、現状の広場は土の広場になっているため、土が良いという意

見もあったが、土では雨の日にぬかるんでしまい庁舎として機能しなくなるため、土を使用したりサイクル舗装材もあるため、そういったものを舗装部分には使えるのではないかと考えている。しかし、耐久性の部分では、問題があることから、車が止まる部分に関しては基本的にはアスファルトとなるがグレーのアスファルトではなく、できるだけ広場と色を合わせるように想定している。広場と駐車場はバリアフリーの観点から段差は設けない方向で考えている。

駐車場の車室に関しては、災害時のことを考えると様々な使い方が出てくると思われるため、大きな車や形が違うような車も止める必要があると考えている。そのため、車止めなどは設けず、全体が広がりをもって一体の空間として使える設えとなるよう考えている。

イベントなどの際は、広場やマルチスペースで行うと思うが、車での来場を制限するなどして駐車場を含めた大きなイベントも可能なのではないかと考えている。

市民ワークショップでは、現状と同様に使いたいという意見もあったが、食事をするところが少ないという意見や食堂がないためランチカーが停められるようなスペースも考えて欲しいといった意見もあった。

【委員】

この敷地には、様々な人たちが庁舎・福祉会館を利用するというところで、自動車については歩車分離が理解できると思うが、自転車は、自動車の道路を通るのか、歩行者用通路を通るのかについて、安全性に配慮する上でも、ウエルカムひろばのすぐ近くの駐輪場に停める、東側はある程度入ったところの駐輪場で停める。それでも中に入ってくる場合については、自転車から降りて、歩行者と同じというように移動していただきたいと思っている。そこは時間をかけながら積み重ねながら全体の運用の仕方を徹底していく必要があると思う。

改めて、市民ワークショップなどの意見を伺い、小金井市民の意識の高さに関心をしたところで、私共もその後、そうした意見を積み重ねながら、設計者とお話しているということも合わせて市民の皆さんにお伝えさせていただく。

《次第5 総括》

【委員長】

2月ころに、もう1度、設計レビューがあると伺っている。

さらに発展させた内容で行いたいと思う。

最後に、本日の総括をさせていただく。

本日は大きく5つの項目について意見があった。

1つ目はデザインについて、2つ目は構造について、3つ目は設備について、4つ目はコストについて、5つ目が将来的な計画について。

デザインについて、まずは駐車場の一部がひろばとして使用できるようになったことはとてもよかった。しかしながら、福祉会館の屋上にどのように繋がるのか、階段のデザインはどうか、有事の際の活用、さらに車、自転車、歩行者の安全対策はどうするのか、舗装材、植栽、利用形態について、検討をお願いする。もう一つは、コミュニケーションネットワークのデザインについて、マルチスペース、カフェ、多目的室で2階からも3階からも見える関係を作りたいというのが、提案であった。一方で、音の問題、プライバシーにも十分配慮していただきたい。このスペースは、庁舎と福祉会館を複合化した最大のメリットであることから、十分配慮して、引き続きの検討をお願いする。

2つ目の構造については、2つの構造が違う建物を合築して、コストパフォーマンス、安全性が優れたものということであった。

3つ目の設備について、この施設は、北側は硝子となっており、南と東西は壁ということで、設備的には有利な敷地ということであった。4つ目のコストにも関連するが、長い視点で見ると、コスト的にも有利ということであった。さらに、建物が段上形状となっており、換気を下から取り入れることができるということで、デザイン、構造、設備、コストが非常にうまく連携しているという印象を受けた。

最後に、将来的な計画については将来的な行政需要等も考慮し、フレキシビリティの高い修繕計画を備え、市民サービスにも影響がないように考える必要がある。そのような点についても十分配慮して進めていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

《次第6 閉会》

【委員長】

本日は以上で閉会する。